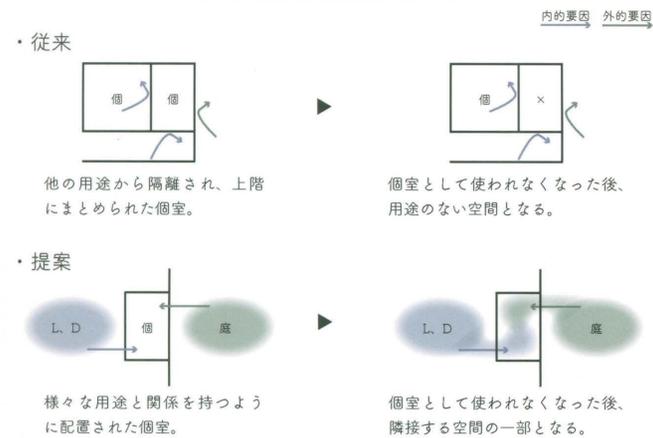




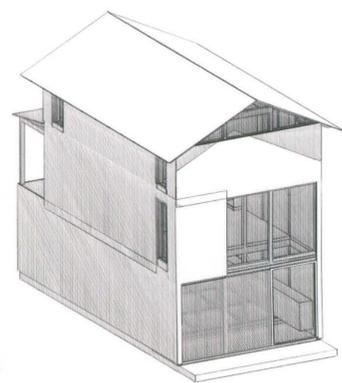
箱が漂う家

現在の住宅では、個室はさまざまな空間から隔離されるように配置され、ライフスタイルの変化に応じて変化することが困難である。本設計では、個室という箱が内・外的要因によって用途が変化し得るように配置し、個室とその他の空間がどのような関係を持つかを再考している。また、平面計画を吹抜を介し立体的に繋げることで上下階で生活の雰囲気や空気が漂う都市の家となっている。

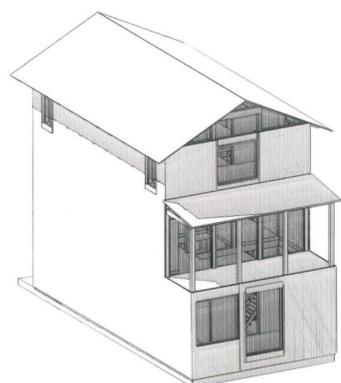
□ Diagram - 個室と内・外的要因 -



□ Axonometric - ファサード構成 -

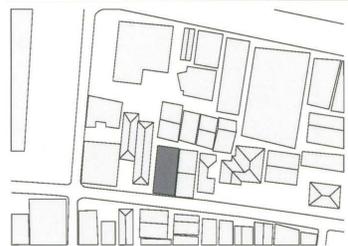


南側



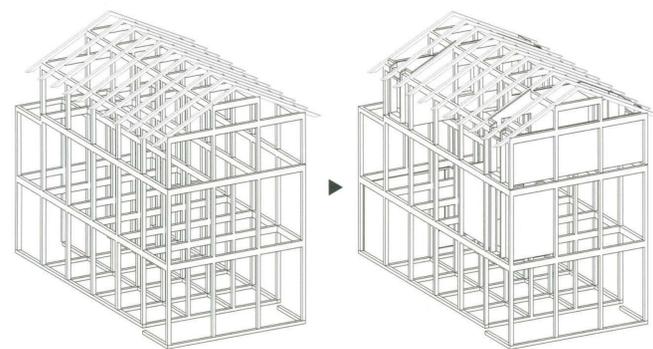
北側

□ Diagram - 阿佐ヶ谷のコンテキスト -



阿佐ヶ谷は郊外住宅地で、住宅が過密と言える程に建ち並んでいる。そこで今回の提案では少し小さめな 1600mm 四方のグリッドを用い建物を配置することで、この阿佐ヶ谷の地に馴染むような空間を提供する。

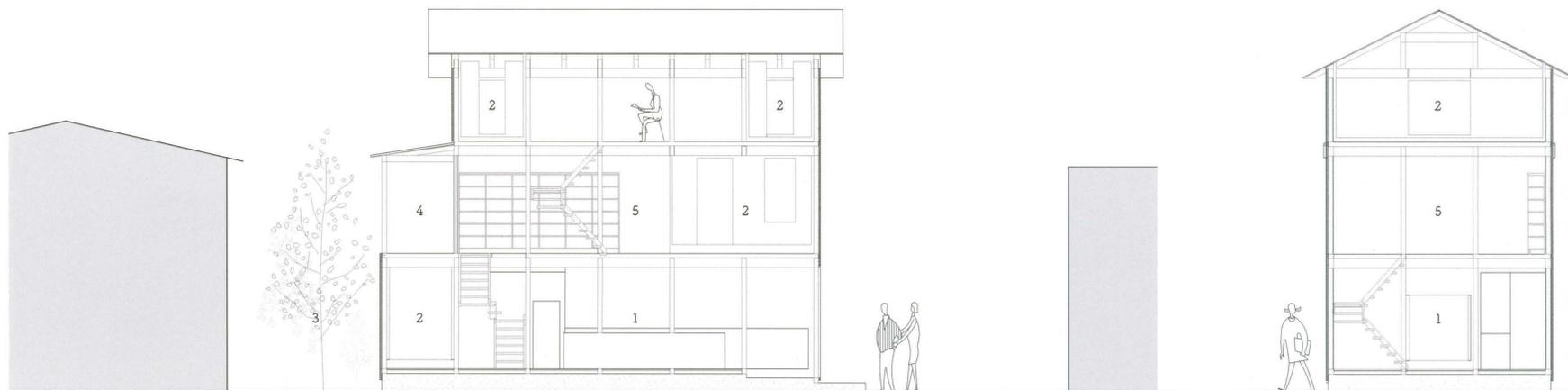
□ Diagram - 箱と 1,600×1,600mm の立体グリッド -



1,600×1,600mm グリッドを立体的に構成する。

1,600×1,600mm グリッドに箱を挿入する。

□ Section -S=1:100-



□ Plan -S=1:100-

1,600mm のモジュールで 3×6 のグリッドが構成され、その上で生活が展開されている。吹抜を介して上下階が繋がっており、全体としてはワンルームの空間となっている。そのワンルームの空間に個室の箱が漂うように配置され、リビングやダイニング、庭などと程よい距離で関係している。個室の外部に面する窓は出窓のようになっており、また室内側の開口部は立ち上がりを設けることで、完全には開いていない。

- 1. ダイニング 建蔽率：57.5%
- 2. 個室 容積率：128.2%
- 3. 庭 家族：夫婦+子供 2 人
- 4. テラス
- 5. リビング

